

項目	観点		
		小学音楽音楽のおくりもの(17・教出)	小学生の音楽(27・教芸)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を見につけていく際の取り扱い内容は、どのように配慮されているか。【知識及び技能】	・楽曲を特徴づけるリズム等を抜き出して掲載し、音楽の諸要素(リズム・旋律・強弱・速度等)がもたらす音楽の構造についての理解を助けられるよう配慮されている。 ・学習の道筋が分かりやすく図解されており、歌唱や器楽の音楽表現に必要な技能が無理なく身に付くよう配慮されている。 ・音楽づくりや旋律づくりにおいて、児童の発達段階に応じた活動が系統的に取り入れられており、音楽表現に必要な技能が学年が上がるごとに自然に身に付くように配慮されている。 ・音符や五線など、基礎的な内容の理解を助けるために、ワークシートや透明シートを使って活動できるように配慮されている。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能の確実な定着を図るために、導入時に8ページを使ってゆっくりと着実にステップアップできるように配慮されている。	・音楽の諸要素(リズム・旋律・強弱・速度等)がもたらす音楽の構造や、諸要素の働きによって曲想が変わることを示すことで、曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解を助けられるよう配慮されている。 ・歌唱や器楽の技能を身に付けるためのポイントや練習方法がていねいに例示されており、技能の習得が図れるよう配慮されている。 ・歌唱、器楽、創作、鑑賞の領域において、6年間を通して児童の発達段階に応じて系統的に構成されており、音楽表現に必要な技能が学年が上がるごとに自然に身に付くように配慮されている。また、中学校への学びのつながりも配慮されている。 ・音符や記号、五線などが「新しくおぼえること」という枠内に分かりやすくまとめられており、基礎的な音楽用語の理解が深まるように配慮されている。 ・リコーダーの学習において、新出の運指が端に大きく図示されており、技能の確実な定着が図れるよう配慮されている。
	(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにするために取り扱う内容は、どのように配慮されているか。【思考力・判断力・表現力等】	・一人一人が音楽を聴いて気が付いたこと、感じ取ったことを書きとめるワークシートが豊富に掲載されており、思考を深めながらグループ活動ができるように配慮されている。 ・聴くポイントが文字と絵で分かりやすく示されており、音楽を深く味わって聴くことができるように配慮されている。 ・「音楽を表すいろいろな言葉」が巻末に掲載されており、聴き取ったイメージなどを言葉で表現する際のヒントとなるように配慮されている。 ・題材ごとに関連している音楽の諸要素とともにメモ欄があり、思いや意図をメモしながら学習できるように配慮されている。 ・臨場感あふれる写真を掲載することで、音楽のよさに気づき深く味わえるように配慮されている。	・音楽表現を工夫するためのヒントが文章や図でいくつも例示されており、個々の考えに沿ってヒントを参考にしながら活動できるように配慮されている。 ・様々なワークシートが掲載されており、個々の思いや意図を書き込みながら表現を工夫したり楽曲を味わって聴いたりできるように配慮されている。 ・楽曲に施された工夫を見つけ出せるような活動例が多数提示されており、音楽を深く味わって聴けるよう配慮されている。 ・楽譜、絵、写真などが効果的に組み合わせて掲載されており、多様な楽器の音色や響きにも注目して、楽曲を深く味わって聴くことができるように配慮されている。 ・グループ活動時の会話を想定した吹き出しが豊富に掲載されており、音楽づくりの学習において、自分の思いを言語化できるように配慮されている。
	(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い豊かな情操を培うために取り扱う内容はどのように配慮されているか。【学びに向かう力、人間性等】	・「全校合唱」として1～6年生まで「音楽のおくりもの」「さんぽ」の2曲がどの学年にも担当されており、学校行事および学年行事等でも音楽活動が楽しめるように配慮されている。 ・4～6年生用の巻頭にあるプロの演奏家からのメッセージによって、音楽のよさを児童に伝えられるように配慮されている。 ・現代社会に即した教材や我が国及び諸外国の様々な時代やジャンルの教材を取り上げることで、進んで音楽に親しみ、音楽のもつ多様なよさが感じ取れるように配慮されている。 ・低学年においては身体表現を伴い、楽しみながら音楽活動に取り組める内容が豊富で、動作化によって感性が育まれるように配慮されている。 ・日本人に歌い継がれている童謡などの歌曲がどの学年にも掲載されており、音楽に親しむ態度を養えるよう配慮されている。	・巻頭の歌唱教材は、どの学年も仲間と共に音楽を表現することの楽しさや喜びが感じられる楽曲が配置されており、音楽を愛好する心情を育めるように配慮されている。 ・世界でも注目されている日本の伝統芸能やスポーツの世界で使われている楽曲などを、写真やコラムを交えて紹介するページがあり、音楽に親しみ、音楽のもつ多様性を感じ取れるように配慮されている。 ・身体表現を伴い、楽しみながら音楽活動に取り組める内容が豊富で、教師や友人と共に体験的に学べるように配慮されている。 ・「わたしたちが受けつぐ」郷土芸能が、裏表紙に系統的に掲載されており、生活の中で音楽に親しむ態度を養えるように配慮されている。 ・「君が代」の取り扱いが大きい。また「君が代」が歌われる様々なシーンの写真を掲載したり、どのような思いで歌われているかななどのコラムを載せたりと、愛国心を育みながら音楽に親しむ態度が養えるように配慮されている。
2 内容の程度及び取り扱いについて	(1) 音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中で音や音楽と豊かに関わるために、どのような工夫が見られるか。	・鑑賞教材では、時代背景や作曲者の生い立ち等の、豊富な情報により、音楽的な見方・考え方を働かせながら、豊かに音楽と関わる工夫が見られる。 ・「にっぽんのうた」と称する教材を通して、日本の美しい風景や生活と音楽の関わりについて学ぶことができるよう工夫されている。 ・高学年では、日本のアニメや映画の音楽が取り上げられており、現代の音楽文化と豊かに関わるための工夫が見られる。	・身の回りで見つけた音を音楽づくりの学習と関連付ける活動や、体験型の鑑賞の活動が多く、児童の学びが音楽と豊かに関わるものとなるよう工夫されている。 ・郷土の音楽を学習する題材においては、調べる観点や方法が掲載されており、社会科や総合的な学習と関連付けて音や音楽と豊かに関わるための工夫が見られる。 ・6年生の特集ページでは、ブラインドサッカーや障害者用信号機が掲載されており、生活の中における音の働きや役割について考える力が育つように工夫されている。
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、どのような工夫が見られるか。	・「まなびナビ」で、学び方が紹介されており、主体的に学べるような工夫が見られる。また、高学年では「学び合う音楽」と称する主体的・対話的で深い学びの実現に向かう活動例が紹介されている。 ・創作活動では、音迷路や身近な動物の鳴き声や動きを言葉にあてはめた例などが挙げられ、主体的に音づくりやリズムづくりができるように工夫されている。 ・楽器による発展的な演奏のアレンジ例が豊富に示されており、音楽的能力が高い児童には主体的で深い学びにつながるよう工夫されている。	・個別だけではなく、ペアやグループなど音楽を友達と共有し、楽しみながら学べるような活動が具体的に掲載されており、対話的な学びが実現されやすいよう工夫されている。 ・鑑賞活動では感じたことや気付いたことについて、創作活動では作ったリズム等について書き込めるようになっており、主体的・対話的な学びにつながるよう工夫されている。 ・各学年に応じてイラストや写真を効果的に配置することで、分かりやすい楽譜となっており、表現活動に主体的に取り組めるよう工夫されている。
	(3) 表現や鑑賞の活動において共通に必要なとなる資質・能力である〔共通事項〕の扱いについて、どのような工夫が見られるか。	・教材ごとに右ページ上部に「音楽のもと」が表示されており、音楽を形づくっている要素を意識しながら学習できるようになる工夫が見られる。 ・巻末に「『音楽のもと』まとめ」や「音符や休符、記号など」が掲載されており、1年間で学習した〔共通事項〕が確認できるような工夫が見られる。	・音楽を形づくっている要素が、教材ごとに右ページ下部に表示されたり、題材名に多く使われたりしていることで、〔共通事項〕を意識しながら学習できるようになる工夫が見られる。 ・巻末の「ふり返りのページ」の中に、1年間で学習した〔共通事項〕がまとめて表示され確認できるような工夫が見られる。

項目	観点	
3 構成・配列・分量	(1) 題材の構成や教材の配列には,どのような特色があるか。	・全学年を通して,基礎的・基本的な内容を習得する題材群(低学年で「リズム」「旋律」「強弱」,中学年で「楽譜」,「拍子と旋律」,高学年で「和音」「調」)を前半に配列し,前半で培った力を活用して発展的な学習となるような題材群を後半に配列する題材構成となっている。 ・「音楽ランド」「めざせ楽器名人」「全校合唱」というタイトルで,楽器奏法や音楽づくり,主要教材との関連,行事等で扱える曲集等,選択可能でオプション的な教材が,全学年においてトピック的な配列で掲載されている。 ・1年生ではスタート・カリキュラムを視野に就学前の学習と関連した教材が設定され,2年生以上では,音を聴き合う力を育むスキルアップ活動が設定されている。
	(2) 題材や教材の分量には,どのような特色があるか。	・各学年で取り扱われている題材数は,1年(7),2年(8),3年(8),4年(8),5年(7),6年(7)である。その他,選択可能でオプション的な教材として,「音楽ランド」「めざせ楽器名人」「全校合唱」の中で多数取り上げられている。 ・歌い継がれている日本の歌に関する教材は,1年(4),2年(3),3年(3),4年(3),5年(4),6年(2)が取り上げられている。 ・「音のスケッチ」と称する創作的な活動の題材は,各学年とも3つずつ取り上げられている。 ・器楽教材は1年生と3年生で多く取り上げているが,歌唱教材・音楽づくりの教材・鑑賞教材については,, どの学年もバランスよく取り扱われている。
4 表記・表現	(1) 用語や記号,レイアウト等について,どのような工夫が見られるか。	・教科書に出てくるマークが細かく分類されて掲載されている。 ・鍵盤ハーモニカの写真が実物大の大きさと掲載されており, 見やすい工夫をしている。 ・題材の表示の中で, 活動のねらいとなる言葉が大きく表示されている。 ・発達段階に合わせて, 図形楽譜を使用したり歌詞のパートごとに配色を変えたりするなど, 児童が活動しやすくなるような工夫が見られる。 ・音楽の用語が見開きページの右側に帯になって表示しており, 分かりやすい。 ・「君が代」が見開きになり, 歌詞についての説明や写真などが載っていることで, 国歌に対する関心が高められるような工夫がある。 ・へ音記号の際の左手の指使いが載っていて, 分かりやすい。
	(2) 写真や挿絵,図表等について,どのような工夫が見られるか。	・音楽表現を工夫する多くの情報として, 色分けされた複数のパターンの児童のつぶやきが吹き出しで掲載する等の工夫が見られる。 ・見開きで様々な内容が載っており, 学習する際に使いやすい。 ・表紙の裏には, 音楽や芸能の世界で活躍している人物からのメッセージが掲載されており, 児童の音楽に対する興味・関心が高まるように工夫されている。 ・低学年はイラストと写真が組み合わせてあり, 活動への意欲が高められるよう工夫されている。 ・巻末に見開きのページがあり, 学年に応じた資料が豊富である。共通事項については「音楽のもと」としてまとめてあり, 低学年はイラスト中心, 高学年は図や楽譜を使って説明されている。 ・折込ページを使い, 日本の歌(共通教材)のイメージが広がるように, 美しい写真を載せている。
5 体裁, 使用上の便宜	装丁や使用上の便宜等については,どのように配慮されているか。	・再生紙と植物インキを使用し, 環境に配慮されている。 ・色覚等の特性に配慮した配色やユニバーサルフォントを取り入れ, 特別支援教育への対応が配慮されている。 ・3年と5年でセルシートを採用しており, 興味・関心をもって学習に取り組めるような配慮がされている。 ・低学年用のみ, 教科書のサイズは縦の長さが少し短いことで, 鍵盤ハーモニカのケースに立てて演奏しやすいう配慮されている。 ・ウェブサイトのアドレスや2次元コードが目次の下に掲載されており, 学習に役立つ情報を学校や家庭でも閲覧できるように配慮されている。 ・折込資料に楽器の説明やリコーダーの運指が載っており, 開いて使用することで, 演奏する際の助けとなるよう配慮されている。
		・全学年を通して,「各学年のスタートに適したオリエンテーション的な題材」「音楽を形づくっている要素との関わりを中心にした題材」「我が国や郷土の音楽を学ぶ題材」「学年まとめの総合題材」の4つの題材で構成されている。1年～6年までの学びがつながるよう,系統的な題材構成となっている。 ・低学年では, リトミック的な要素をもった身体表現を中心とした教材が多く, 楽しみながら活動できるように工夫されている。 ・1年生では, 幼児期に慣れ親しんだ教材が多く取り上げられており,スタートカリキュラムに配慮されている。 ・巻頭に「学びの地図」として学年で学ぶ楽器や活動内容の絵が描かれており, 一年間で何を勉強するのかが一目で分かるようになっている。
		・各学年で取り扱われている題材数は,1年(10),2年(10),3年(9),4年(9),5年(8),6年(8)で, どの学年も, 音楽的な基礎基本の確実な定着をねらった題材が配置されている。 ・歌い継がれている日本の歌に関する教材は,1年(3),2年(3),3年(3),4年(3),5年(2),6年(2)が取り上げられている。 ・創作的な活動の題材は,1年(5),2年(5),3年(4),4年(4),5年(2),6年(2)が取り上げられている。 ・低学年では歌唱・音楽づくりの教材, 中学年では器楽教材, 高学年では鑑賞教材を多く取り上げ,, 発達段階に応じた重点領域を置いている。
		・教科書に出てくるマークが精選されていて, 児童へのアドバイスは3人のキャラクターが話すように工夫されている。 ・発達段階に応じた文字の大きさや, 見やすいフォントが使われている。 ・低学年では五線譜よりも, 音の高低やリズムが図や写真で視覚化した簡易譜を多く使用するなど発達段階を踏まえた楽譜を提示している。 ・色分けして縦書きの歌詞と楽譜を関連付けたレイアウトになっている。 ・初めてへ音記号を扱う曲では, 音符の中に階名が書かれているなど, 読譜の難しさを軽減する工夫がされている。 ・「君が代」が見開きになり, 各学年に応じた国歌に対する関心を高めるような写真や言葉が添えられている。
		・音楽表現を工夫する際のヒントとなる児童のつぶやきの吹き出しは, シンプルな色づかいと適切な情報量となっている。 ・写真の種類の精査や, サイズの工夫によって, 学習の焦点化が図られている。 ・学び合いの方法がイラスト等で分かりやすく例示してある。 ・楽器の名前と写真が合わせて載っていて, 分かりやすい。 ・高学年でも, 鑑賞教材の主な旋律を図形楽譜で示しており, 旋律をつかみやすい。 ・裏表紙には, 各地に伝わる郷土芸能を大切に受け継いでいる子供たちが紹介されており, 日本の伝統文化への興味・関心が高められるよう工夫されている。 ・子どもやキャラクターの吹き出しを充実させて, 気付いてほしい点や創意工夫のポイントをわかりやすく示している。
		・再生紙と植物インキを使用し, 環境に配慮されている。 ・特別支援教育の視点に立ち, 限定された識別しやすい配色や濃度で印字されており, 児童が集中して学習できるように配慮されている。 ・耐久性に優れた「糸中綴じ方式」の製本となっており, 低学年の児童でも開きやすい配慮がされている。 ・1年～6年まで, 教科書はA4サイズの縦よりも短いサイズで統一されており, 鍵盤ハーモニカのケースに立てて演奏しやすいう配慮されている。 ・学習に役立つ情報を学校や家庭でも見られるように, 2次元コードがそのページの右下に掲載されており, 学習に役立つ情報を学校や家庭でも閲覧できるように配慮されている。